



シルクフォーラム in 鶴岡 2018 企画展示

(小山市、結城市、小千谷市、京丹後市、与謝野町の着物・反物・帯等の展示)

## シルクのまちづくり市区町村協議会

情報誌の名称の『知・る・く』は、「シルク」の事を「知る」、「シルク」の街を「歩く」という意味が込められており、3つのフレーズを融合させた造語です。

「知」の「0」部分は絹糸をイメージ。同時にシルクの無限大(∞)の可能性も表現しています。

「く」の下部には靴をあしらい、街を歩くイメージと協議会の前進の意味を込めました。

# No.10>>>Contents

---

## ●協賛団体及び関連事業のご紹介

---

- (1) NPO法人日本染織文化振興会 ..... 1

## ●わがまちのシルクPR隊のご紹介

---

- (1) ゆうき着楽会（茨城県結城市） ..... 5

## ●産地ブランドマークのご紹介

---

- (1) 鶴岡シルク ブランドマーク（山形県鶴岡市） ..... 6

## ●会員自治体の情報(シルクに関わるイベントや取り組みなど)

---

- (1) 山形県鶴岡市 ..... 7
- (2) 茨城県結城市 ..... 10
- (3) 栃木県小山市 ..... 11
- (4) 山梨県富士吉田市 ..... 12
- (5) 長野県岡谷市 ..... 14

## 《参考資料》

---

- シルクのまちづくり市区町村協議会・構成員一覧 ..... 16
- シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣意書 ..... 18

---

## 協賛団体及び関連事業のご紹介

---

平成 28 年度から、NPO 法人日本染織文化振興会 様より、事務局サポートとして協議会に加入いただいております。今回は、団体の概要と、理事長の慶野 憲司 さんが携わっています早稲田大学の講義「きもの学」についてご紹介します。

### NPO 法人日本染織文化振興会について

- ★名称：特定非営利活動法人日本染織文化振興会
- ★代表：理事長 慶野憲司
- ★事務所所在地：〒157-0061 東京都世田谷区北烏山6-17-14
- ★活動目的：この法人は、広く一般市民を対象として、我が国の優れた伝統工芸技術の一つである染織技術の価値を再定義することにより、国民一人一人が染織という我が国の伝統文化を再認識し、染織技術及び優れた染織品による「きもの」文化を継承するために、染織及び着物に関する啓発振興事業、優れた技術をもつ染織技術者同士が協力して技術の継承を図る技術者連携・育成事業、染織技術や着物に関する情報を収集・提供する調査・情報提供事業などを展開し、これにより我が国の文化・伝統を保護し、もって公益に寄与することを目的とする。
- ★事業内容：
  - この法人は、上記の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。
    1. 学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動
    2. 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
    3. 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動
  - この法人は上記目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。
    1. 啓発振興事業
      - ◆染織技術に関するセミナー・講習会・シンポジウムの開催
      - ◆「きもの着方講座」の開催
      - ◆染織技術に関するパンフレットの制作
    2. 技術者連携・育成事業
      - ◆染織技術講座の開催
      - ◆染織関連技術者が連携して技術継承を図るための基盤の整備
    3. 調査・情報提供事業
      - ◆インターネットホームページ及び機関誌を活用した情報提供
      - ◆染織及び染織関連技術に関する調査の実施
      - ◆染織技術及び染織関連技術に関する書籍の出版
    4. 目的を同じくする他の団体との連携事業
      - ◆他の団体が開催するイベントへの参加及び協賛
      - ◆日本の文化及び伝統技術を保護するための活動を行っている他の機関、市民団体、個人等との情報交換
    5. その他目的を達成するために必要な事業
  - この法人は、次のその他の事業を行う。
    1. 染織品及び織物の販売
    2. 染織品に関する出版物の企画・制作事業
    3. 染織関連企業と共同で行う染織及び着物に関するイベントを開催する事業

## 早稲田大学「きもの学」について



最も人気の着装体験講座

早稲田大学では、平成14年より(一社)全日本きもの振興会の寄付講座として「きもの学」講座が開設され、本年度で12年間実施されている。

開講の目的は、単に和装文化の紹介や解説にとどまらず、幅広く「きもの文化」をとらえ、きものを科学的な幅広い知識を学生に会得してもらうために開講された。

この講座は早稲田大学の全学生を受講対象として公開されており、当然、学習単位として一定の要件を満たした学生には単位が認定される講座である。

主な内容は、きもの基本となる農業生産物との関わりや染織、流通、風俗文化、地域経済、中央行政、ファッション流行、等々多方面に渡り、一流の講師陣を招いて実施している。



## 協賛団体及び関連事業のご紹介

### ●これまでの講師の陣容

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
1	清田のり子	藤井浩次	藤井浩次 波多野進	藤井浩次 波多野進	藤井浩次 波多野進	藤井浩次 牧野 茜	藤井浩次 牧野 茜	藤井浩次 牧野 茜	藤井浩次 富澤輝実子	藤井浩次 富澤輝実子	藤井浩次 富澤輝実子	藤井浩次 牧野 茜
2	渡邊正義 (丹後工業組合)	市田ひろみ (評論家)	市田ひろみ	笹島寿美	富澤輝実子 (きもの研究家)	富澤輝実子	辻村寿三郎 (人形作家)	堀内俊洋	堀内俊洋	奥澤順之 (結城紬)	上田香苗 (佐賀錦)	澤井伸 (八王子)
3	笹本信子 (伝統文化)	早坂伊織 (研究家)	富田篤 (江戸小紋)	武居正和 (絹業協会)	小川文男 (ゆかた)	コシノ ジュンコ	富澤輝実子	笹島寿美	笹島寿美	松島由美 (佐賀錦)	三橋順子	鈴木康子
4	富田篤 (江戸小紋)	渡邊正義 (丹後工業組合)	山岸幸一 (紅花)	酒井貞治 (西陣織)	木下勝博 (aiwa)	武居正和	原田昌行 (博多織)	富澤輝実子	木下勝博	中村信喬 (博多人形師)	亀山豊文 (桐生市長)	笹島寿美
5	富田篤 (江戸小紋)	生谷吉男 (型友禅)	吉村紅花 (研究家)	毎田健治 (加賀友禅)	笹島寿美	泉二弘明 (男のきもの)	堀内俊洋	田村憲一 (新潟)	金田朝政 (江戸小紋)	笹島寿美	笹島寿美	佐々木亮一 (仏光寺)
6	勝野盛夫 (蚕糸研究所)	富田篤 (江戸小紋)	狩野寿作 (絹)	城間栄順 (紅型)	福島雅子 (きもの研究家)	笹島寿美	中谷比佐子 (きもの研究家)	松枝哲哉 (久留米緋)	松竹喜生子 (八重山)	畑中章宏 (民俗学研究者)	柴田祐史 (丹後)	皆川治 (鶴岡市長)
7	羽田 登 (京友禅)	佐野良吉 (十日町)	長崎巖 (美立女子大教授)	長崎巖 (美立女子大教授)	安永香織 (大島紬)	山下誉 (黄八丈)	三橋順子	大森仔佑子 高橋律子 (石川)	新田源太郎 (米沢)	中村圭子 (衛生学助産師)	岡山摩紀 (京都)	藤谷のみ子 (アットカン)
8	奥澤武治 (結城紬)	酒井貞治 (西陣織)	山崎和樹 (草木染)	池田喜政 (研究家)	堀内俊洋	築城則子 (小倉織)	小平真治郎 (西陣織)	大森洋平 (テレビ製作)	西正智 (鹿児島)	築城則子	吉田満梨 (立命館大教授)	近藤麻子 (文化学大教授)
9	酒井貞治 (西陣織)	笹島寿美 (着付師)	豆千代 (アトリエきもの)	鈴木康子 (きものマスコミ)	五味良子 (伝統服飾評論)	藤田繁樹 (紫根染)	田畑喜八 (友禅)	仙太史博 (大島紬)	石山裕司 (舞台衣裳)	中島徹也 諫山宗敏	近藤隆造 (桐生市長)	棚町敦子 (きものマスコミ)
10	コシノジュンコ (デザイナー)	富山弘基 (研究家)	笹島寿美	正田夏子 (能衣装)	三遊亭鳳楽 (落語家)	永田一郎 (絞りに染)	池坊由紀	伊豆蔵直人 (京都)	内田信子 (佐賀錦)	皆川明 (デザイナー)	花城武 (琉球花織)	貝原良治 (備後)
11	菊池明 (歌舞伎衣裳)	菊池明 (歌舞伎衣裳)	マノグリエ真矢	村田孝子 (結髪)	増井一平 (型紙紙師)	福島雅子	笹島寿美	寺村英信 (経産省)	堀畑裕之 関口真希子 (デザイナー)	堀内俊洋	田村富昭 (経産省)	佐々木文人 (経産省)
12	——	波多野進	四方田雅史 (産業経済史)	四方田雅史	児玉竜一 (舞台衣裳)	池坊由紀 (華道家)	樋口隆司 (越後上布)	池坊由紀	池坊由紀	池坊専好	池坊専好	池坊専好
13	矢嶋孝敏	高橋尚義 (経産省)	三橋順子 (秩父銘仙)	堀内俊洋 (きもの経済史)	江木良彦 (きものデザイナー)	片岡進 (経産省)	永田一郎	永田一郎	今井陽子 (近代美術館主)	菅野将史 (経産省)	堀内俊洋	堀内俊洋
14	大橋英士	矢嶋孝敏	矢嶋孝敏	矢嶋孝敏	田川和幸 (経産省)	堀内俊洋	片岡進 (経産省)	吉村紅花	寺村英信	田辺真由美 (きものマスコミ)	棚町敦子 (きものマスコミ)	城間栄一 (紅型)
15			間宮淑夫 (経産省)	富口賢一 (経産省)	矢嶋孝敏	矢嶋孝敏	矢嶋孝敏	矢嶋孝敏	矢嶋孝敏	矢嶋孝敏	矢嶋孝敏	高木賢 (製糸)
16											矢嶋孝敏	矢嶋孝敏

### ●12年間の受講者は延べ6千人以上

教科の履修にあたっては、当然登録が必要で、実施当初の予測では200人程度と予測したが、実際には400人近くの登録があった。学生の「きもの学」講座への関心の高さが伺える。

毎年の受講希望の学生数はほぼ同様で、これまで受講した学生の総数は6千人を超える数となっている。

また、著名な講師については、一般公開として早稲田大学のシンボルである大隈講堂で講演を行っている。平均して60～70名に及ぶ多くの一般市民の参加を得ている。

男女の履修者の比率は、平均して女性が8割、男性が2割となっており男子学生にも「きもの学」の関心があるといえる。

## 協賛団体及び関連事業のご紹介

### ●学部別の履修状況

	学部	履修者数	女	男
1	政治経済学部	27	22	5
2	法学部	42	32	10
3	第一文学部	54	44	10
4	第二文学部	89	75	14
5	教育学部	30	26	4
6	商学部	24	16	8
7	理工学部	2	1	1
8	社会科学部	12	9	3
9	人間科学部	18	14	4
10	スポーツ科学部	1		1
11	国際教養学部	49	43	6
12	文化構想学部	32	31	1
13	文学部	16	13	3
	合計	396	326	70

### ●講義に満足

学生は講義の終了後に、レポート提出が義務づけられており、この内容の評価によって採点され最終的に単位の取得につながっている。

幅広い講演内容に学生の関心は常に高く、また多角的に「きもの」捉えることで学修意欲を満足させられたとの意見が多く寄せられた。

「きもの」というと若者はとかくファッション、流行、伝統技術、伝統的地場産業としての側面とらえがちであるが、この講座を受講することで地域経済、文化、哲学などグローバルなとらえ方が出来たようだ。

今後も、きもの産業の仮題、展望に焦点あてた講義の展開の必要性が益々増すと考える。



シルクのまちづくり市区町村協議会代表として講義をする鶴岡市皆川市長（2018.11.8）

## わがまちのシルクPR隊のご紹介

# ゆうき着楽会

ゆうき着楽会は、平成27年5月にきもの着付け支援団体として設立しました。ユネスコ無形文化遺産に登録された「結城紬」を地域資源として活用し、市のPRを行っています。

市内だけでなく他市のイベントや催事にも出向き、結城紬着心地体験を実施しています。是非、この機会に、結城紬の魅力に触れてみませんか？



## 年間事業

3・4月	きものday桜めぐり
6・9月	結城紬 単衣貸出
10月	紬のふるさと体験授業 (中学2年)
11月	きものday結城
2月	ゆうき物産まつり
3月	水戸の梅まつり
土日祝	ふらり結城紬着心地体験
随時	結城紬きもの貸出事業



事務局 所在地

〒307-8501 結城市大字結城 1447

結城市産業経済部商工観光課

電話 0296-34-0421

FAX 0296-32-7123

平日 午前8時30分

～午後5時15分

## 産地ブランドマークのご紹介

### 鶴岡シルク ブランドマーク（山形県鶴岡市）



**kibiso**

tsuruoka silk

FROM TSURUOKA TO EVERYWHERE

■ブランドマーク名

「kibiso」ブランドロゴマーク

■ブランドマークの説明

まゆをイメージしたデザイン。下の“FROM TSURUOKA TO EVERYWHERE”という一文は、鶴岡より北には養蚕の産地がなく、ここがシルクロードの最終地点。ここから世界に向けてもう一度折り返して発信していきたい、という意味が込められています。

**侍絹**

samurai silk

■ブランドマーク名

「侍絹-samurai silk-」ブランドマーク

■ブランドマークの説明

「侍絹」と書いて「サムライシルク」と読みます。庄内藩士達が開墾した歴史的な背景や律儀なまでに筋を通す庄内藩士の心持ち、懐かしさや古き良き時代をイメージするようなデザインにしました。



## 「シルクフォーラム in 鶴岡 2018 ～東北絹産業の未来～」開催報告

8月28日に、マリカ市民ホールにて、「シルクフォーラム in 鶴岡～東北絹産業の未来～」を開催しました。鶴岡中央高校シルクガールズの皆さんによるファッションショーがオープニングを飾り、東北地方で活躍されている3名の方によるトークセッションにて、多様なシルクの可能性を学びました。また、全国のシルク産地のきものやネクタイ等のシルク製品を展示し、会場が彩られました。



シルクガールズ ファッションショー



（左から）川俣町長、岡谷市長、鶴岡市長、齋藤社長、鳥光教授、大和社長



会場の様子



企画展示の様子

## トークセッション「東北絹産業の未来」

東北各地で活躍されている 3 名のパネリストの方から、取り組まれていることや課題に思われていること、シルクの可能性、未来に向けたメッセージなど、様々なお話を伺いました。

【ファシリテーター】 フリーアナウンサー 佐藤 暁子 氏



【パネリスト】

齋栄織物株式会社 代表取締役社長 齋藤 泰行 氏



世界一薄くてしなやかな先染絹織物「フェアリー・フェザー（妖精の羽）」を開発。髪の毛の太さ（約 50 デニール）の約 6 分の 1（8 デニール）という超極細絹糸が使われている。

シルクの良さは、体になじむ、着心地の良さ。寒い時は温かいし、暑いときは涼しい。国も、我々業者も、体に優しい織物を作っていこうという方向に進んでいっていると思う。

若い人に、いかにして絹の良さ、機能性をわかってもらい、社会にアピールしていくかが重要。

業種の垣根を越えて、ひとつのものづくりの方向に進んでいきたい。

鶴岡シルク株式会社 代表取締役社長 大和 匡輔 氏

蚕が繭を作るときに最初に吐き出す糸「キビソ」の素材を生かした製品づくりを基にした「kibiso」ブランドの商品企画開発と国内外への販売を担う。

「kibiso」をフラッグシップとしてシルクの復活を目指している。

12 年経つが、一緒にやってきた会社がどんどん廃業してしまった。絹はたった 160 年の歴史の合織にとって代われようとしているが、私は、なくなる素材だと思っている。

キビソを見つけてくれたのは外部の人。良さを引き出すには、外から目線やコンセプターが必要。

様々なところとコラボして、メイドインジャパンとして発信できれば、もっと可能性が開けてくると思う。



東北大学大学院 工学研究科教授 鳥光 慶一 氏



絹、シルクに導電性の高分子を融合することで『電気を流すシルク』を作りだし、ウェアラブルや医療をはじめとする研究面での利用と産業への応用を目指して研究に取り組む。

私は、絹を、ほかの皆さんのように繊維素材としてではなく、電気を流すものとして見ている。同じものでも違うものに使えるか考えることは、一つのヒントになるのではないかと。

研究で突き詰めた一番良い糸は、伝統的な手法で作られた糸とまったく一緒だと分かった。蓄積された技術をうまく使うことができれば、さらにステップアップした技術ができるのでは。こういう技術があるということを皆が知り共有することで、新しい産業や技術が生まれてくると思う。

会員自治体の情報（山形県鶴岡市）  
鶴岡シルク製品取扱いショップのご案内



**kibiso**  
tsuruoka silk

# SHOP LIST

鶴岡のシルクブランド kibiso の取扱い店

## What is kibiso??

蚕が繭を作る際に最初に吐き出す【きびそ】。

【きびそ】とは生糸の原材料となる繊維を繭から

たぐる糸口の部分で、蚕が繭を作るにあたって最初に吐き出す糸のこと。

その【きびそ】を使い、ナチュラルな絹製品をつくるブランド

「kibiso」を鶴岡よりお届け致します。



## 直営店



**kibiso** ショップ

3月より  
リニューアル  
オープン!

〒997-0158 鶴岡市羽黒町松ヶ岡字松ヶ岡 25 番地

松ヶ岡開墾場 2 番蚕室

☎10:00 ~ 16:00

毎週月曜日定休日（祝日の場合は営業、火曜日振替／臨時でお休みを頂く場合がございます。）

090-8619-1609（店舗直通）

0235-29-1607（事務所）

クレジットカード利用可



map

## お取り扱い店舗 ※鶴岡市内のみ記載

- |                                 |  |
|---------------------------------|--|
| 鶴岡まちなかキネマ                       | 〒997-0028 山形県鶴岡市山王町 13-36 TEL：0235-35-1228                               |
| 鶴岡地区物産協同組合でがんです                 | 〒997-0028 山形県鶴岡市山王町 3-14 TEL：0235-64-8701                                |
| 清川屋本店                           | 〒997-0015 山形県鶴岡市末広町 5-1 鶴岡駅前マリカ西館 1F 営業時間：8:30 ~ 19:00 TEL：0235-22-7111  |
| 清川屋インター店                        | 〒997-0857 山形県鶴岡市美咲町 33-21 営業時間：10:00 ~ 19:00 TEL：0235-28-3111            |
| HOUSE 清川屋店                      | 〒997-0035 山形県鶴岡市馬場町 8-13 鶴岡商工会議所会館 1F 営業時間：9:00 ~ 17:30 TEL：0235-29-3111 |
| SHONAI HOTEL<br>SUIDEN TERRASSE | 〒997-0053 山形県鶴岡市北京田字下鳥ノ巣 23-1 TEL：050-1754-9721                          |
| 山形湯野浜温泉 亀や                      | 〒997-1201 山形県鶴岡市湯野浜 1-5-50 TEL：0235-75-2301（特別室 HOURAI でのお取り扱いとなります。）    |
| 海辺のお宿 一久                        | 〒997-1201 山形県鶴岡市湯野浜 1-10-29 TEL：0235-75-2121                             |
| 湯田川温泉 湯どの庵                      | 〒997-0752 山形県鶴岡市湯田川乙 38 TEL：0235-35-2200                                 |
| あつみ温泉 萬国屋                       | 〒999-7204 山形県鶴岡市湯温海丁 1 TEL：0120-085-980                                  |
| あつみ温泉 たちばなや                     | 〒999-7204 山形県鶴岡市湯温海丁 3 TEL：0235-43-2211                                  |

kibiso 企画／販売

鶴岡シルク株式会社

〒0235-29-1607 山形県鶴岡市大宝寺日本国 223-5

☎0235-29-1607 Fax0235-29-1608

URL <http://www.t-silk.co.jp>

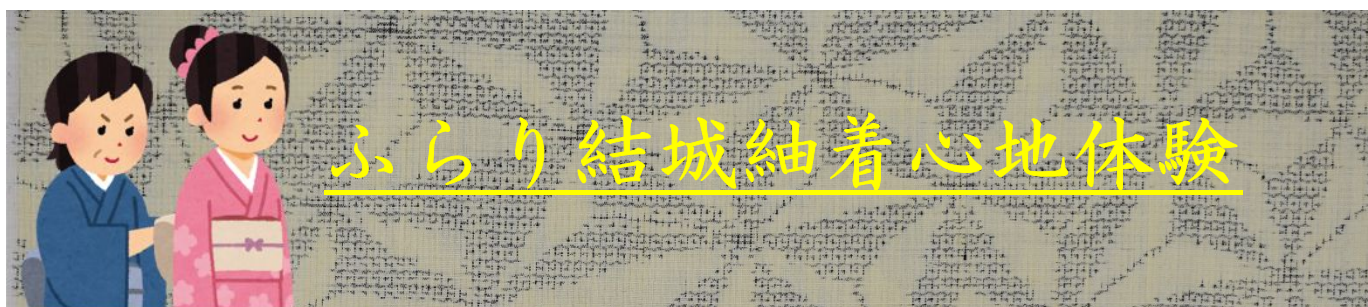


いいもの山形のサイトにて  
ヨシダナギ監督作品  
『colors-Yamagata Crafts-』  
公開中です。





## 茨城県結城市



### ふらり結城紬着心地体験

結城紬は、全て手作業で行われ、最高級絹織物として昔から多くの人を魅了し、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

経糸も緯糸にも全てよりのかからない手つむぎ糸で織るため、軽くて、暖かく、着心地がよいことが特徴です。

ゆうき着楽会では、「ふらり結城紬着心地体験」を行っています。結城紬を着て、情緒あふれる街並みを散策してみませんか。

実施日	毎週 <b>土・日・祝日</b> ※夏季（7, 8月）期間とイベント時を除く
時間	午前10時～午後3時
着付場所	ゆうき紬着付け処『着楽』
料金	男性：2,500円／女性：2,000円
持参物	身分証明書
問合せ	ゆうき着楽会（結城市商工観光課商工振興係内） TEL 0296-34-0421 FAX 0296-32-7123 Mail shokokanko@city.yuki.lg.jp



「結城紬」を着て、情緒あふれる結城の街並み散策



## 本場結城紬 未来への継承 — 小山市職員 二人目の紬織士の誕生 —

栃木県小山市の誇る伝統産業「本場結城紬」は、糸作りから機織りに至るまでの全工程を今もなお産地職人の手作業によって生産されている伝統的絹織物です。その高度な伝統技術は世界にも認められ、平成二十二年にはユネスコ無形文化遺産に登録された一方で、生産者の高齢化と後継者不足から、このままでは日本最古の織物の伝統技術が途絶えてしまうことが懸念されています。

このようなことから、小山市では、本場結城紬の高度な伝統技術を確実に後世へと継承するために、市の職員として「紬織士」という新たな職種を設け、平成二十六年より採用を開始しましたが、平成三十年四月、二人目の紬織士を採用し、結城紬の伝統技術を絶やさなため後継者育成の取り組みをより強靱なものいたしました。

四月の入庁から十ヶ月が過ぎましたが、一反の本場結城紬を自ら織り上げ、二反目からは製織以外の作業工程にも取り組み、本場結城紬の技術継承のために慣れない作業にも果敢に挑戦しています。



**写真①** 二反目となる淡いターコイズブルーの本場結城紬を織る紬織士。着ている着物は一反目に織り上げた本場結城紬を仕立てたもの。

**写真②** 染めた糸に糊を付けている様子。小麦粉で作成した糊の液に糸を浸し、床に叩きつけながら糸をほぐしていきます。



## 芸術とファッションの都「パリ」で

### 富士吉田市・西桂町の生地を使用したバレエ衣装を披露！

富士吉田市産業観光部商工振興課

#### はじめに

富士吉田市・西桂町は、「郡内」と呼ばれる織物の一大産地でした。江戸時代には「郡内縞」や「甲斐絹」といった細い糸で繊細な絵柄を織り上げる高級な織物として広く全国でも知られていました。その後、機械化による大量生産の時代、戦争による生産量の激減、ガチャマン時代、グローバル時代による安い海外製品との戦いなど隆盛と衰退を繰り返してきました。

近年、産地の将来に危機感をもった2代目3代目の中から、ファクトリーブランドが生まれるようになり、産地としての認知度も上がってきました。この流れを産地全体として継続して取り組める活動として、「ハタオリマチのハタ印プロジェクト」が始まりました。

今回のバレエ衣装の制作プロジェクトは、このような流れの中で2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、富士吉田市・西桂町がフランス共和国を交流相手国とするホストタウンに登録決定したことから、フランス共和国関係者との人的・経済的・文化的な相互交流の一環として実現したものです。

#### 素晴らしい出会いがプロジェクトを成功に！

ジャポニスム2018公式企画「伝統と先端と・日本の地方の底力」に、2019年8月に山梨県で予定されているパリ・オペラ座バレエ団所属ダンサーをはじめとする、国際的なダンサーによるバレエ公演での衣装を展示・披露しました。この衣装は、1000年以上の歴史を持つ日本の織物産地である富士吉田市の生地を使用して制作したものです。3日間の企画イベントでは、約1000人の方にご来場いただきました。また、2月5日に開催された「公式レセプション」においては、

きてらまさと  
木寺昌人在フランス日本大使をはじめ多くの関係者にご覧いただくことができました。

このプロジェクトは、2年前に、アートディレクターであり、アルファ・リブラ社(ALFA LIBRA)の創業者であるフレデリック・フォンタン氏(Frédéric FONTAN)との素晴らしい出会いからスタートしました。世界中でバレエ公演を展開するフォンタン氏は、アジアにおいて既にその実績があり、日本公演も視野に入れていました。そんな折、日本の山梨を訪れ、富士吉田市・西桂町の生地を見ていただく機会を得ました。

もう一つの素晴らしい出会いは、今回デザインを担当していただいたアニエス・ルテステュ氏(Agnès LETESTU)です。彼女はパリ・オペラ座バレエ団所属のエトワールとして、パリ・オペラ座をはじめ世界の権威ある劇場を舞台に長きにわたり活躍し、「20世紀で最も偉大なバレリーナの一人」と言われ、フランス芸術文化勲章を授与されるなど素晴らしい実績をもつ著名なダンサーであります。また、現在はダンサー兼衣装デザイナーとして活躍しています。

そのような方々との奇跡とも言える出会いが、今回の大変素晴らしい展示・披露につながったものと考えております。



左：フレデリック・フォンタン氏  
右：アニエス・ルテステュ氏

## 日本の伝統技術とフランスの文化との融合！



バレエ衣装の展示

富士吉田市・西桂町を含む山梨県の織物は、西暦 967 年に延喜式<sup>えんぎしき</sup>に掲載されるなど 1000 年以上の歴史があります。細い糸で繊細な絵柄を織り上げる高い技術は、現在も世界の高級ブランドにも採用されています。

一方、フランスにおけるバレエは、400 年以上の歴史があり、パリ・オペラ座に代表されるバレエ団は世界最高峰の 1 つであると聞いております。

今回のプロジェクトは、フォンタン氏とルテステュ氏の素晴らしい仕事により、日本の伝統技術

である「織物」とフランスの文化を代表する「バレエ」を見事に融合させました。2 人には心より敬意と感謝を申し上げます。

## 多くのフランス人に高い技術を実感していただいた！

当日は、バレエ衣装の展示以外に、富士吉田市・西桂町の生地の素晴らしさや高い技術を実感していただくため、葛飾北斎の富嶽三十六景の絵柄を絹で繊細に織り上げた布を使用して「くるみボタン」に仕上げるワークショップを行いました。これも大変な人気となり期間中 900 人を超える方々に体験していただきました。

また、この機会に本産地の高い品質を実感していただくために、ネクタイやストール、傘などの製品を展示し、多くの人々にご覧いただくことができました。

芸術とファッションの都「パリ」で、富士吉田市・西桂町の生地を使用したバレエ衣装を披露することが出来たことを契機に、当産地の認知を国内外に高め、今後の販路拡大を目指したいと思っております。

ハタオリマチのハタ印プロジェクト HP

<http://hatajirushi.jp/>

ジャポニズム 2018

<https://japonismes.org/>



「くるみボタン」に仕上げるワークショップ



プロダクトの展示

このことに関するお問い合わせは

〒403-8601 山梨県富士吉田市下吉田 6 丁目 1 番 1 号

富士吉田市産業観光部商工振興課

電話 0555-22-1111 内線 401 E-mail [shoko@city.fujiyoshida.lg.jp](mailto:shoko@city.fujiyoshida.lg.jp)

# 伝統ある日本の絹文化を未来へ

## 日本絹文化フォーラム 2019 (3rd) Japan Silk Culture Forum

### テーマ「日本の伝統を纏う - 奥深き紬の世界 -」

★平成 31 年 4 月 28 日(日)

(敬称略)

- |                   |       |  |       |
|-------------------|-------|--|-------|
| 13:00～13:15 (15)  | 開会・挨拶 |  |       |
| 13:15～14:15 (60)  | 基調講演  | 志村ふくみの想いを繋ぐ<br>染織家                                   | 志村 洋子 |
| 14:15～15:35 (80)  | 特別講演  | 本場結城紬の魅力と秘密<br>本場結城紬染織資料館「手緒里」館長<br>(結城紬の着物ショーも行います) | 奥澤 武治 |
| 15:35～15:50 (15)  | 休憩    |  |       |
| 15:50～16:20 (30)  | 活動報告  | 諏訪式真綿紡ぎの実演<br>岡谷蚕糸博物館 学芸員                            | 林 久美子 |
| 16:20～17:05 (45)  | 活動報告  | 次代へ織り成す上田紬<br>手織り上田紬 小岩井紬工房 伝統工芸士 小岩井カリナ             |       |
| 17:05～17:10 (10)  | 閉会    |  |       |
| 17:45～19:45 (120) | 交流会   | ライフプラザ マリオにて   |       |

フォーラム会場：カノラホール 小ホール（岡谷市文化会館、岡谷市幸町 8-1）TEL. 0266-24-1300

参加費：無料（別途テキスト代 1,000 円が必要です） 交流会：5,000 円（自由参加）

申込み：日本絹文化フォーラム実行委員会事務局（岡谷蚕糸博物館内）

電話 0266-23-3489 担当：林（申込み多数の場合は先着順とします）

主催：日本絹文化フォーラム実行委員会

（岡谷市・岡谷蚕糸博物館・NPO シルク文化協会・岡谷商工会議所・蚕糸懇話会・  
岡谷近代化産業遺産を伝える会・岡谷絹工房で構成）

後援：（一財）大日本蚕糸会・日本シルク学会



# 2019シルクフェア in おかや



岡谷市では、毎年4月29日を“シルクの日”としてシルクフェアを開催しています。明治から昭和初期まで日本の近代産業の礎を築いた製糸業の中で、その中核を担った『シルク岡谷』の歴史を風化させることなく、広く継承していくことを目的としております。当日は、市内各所において様々なイベントを用意しておりますので、ご家族でご来場ください。

日時：2019年4月29日（月・祝）

時間：9：00～16：00まで

場所：岡谷蚕糸博物館 他

主催：シルクフェア実行委員会

協賛：(一社)岡谷工業高等学校同窓会、蚕糸懇話会、(有)ハラダ、味澤製糸(株)、諏訪倉庫(株)、(株)宮坂製糸所

協力：国立研究開発法人 農業・食品産業支援総合研究機構、片倉工業(株)、NPO法人くらしとバイオプラザ21、レイクウォーク岡谷、中央印刷(株)、信州シルクロード連携協議会

問い合わせ：シルクフェア実行委員会事務局（岡谷蚕糸博物館内）

〒394-0021 長野県岡谷市郷田 1-4-8

電話：0266-23-3489 mail：[brand@city.okaya.lg.jp](mailto:brand@city.okaya.lg.jp)

<http://silkfact.jp>



## シルクのまちづくり市区町村協議会・構成団体等一覧

(平成31年3月15日現在)

### ■会員（32団体）

1	山形県鶴岡市	12	新潟県十日町市	23	滋賀県長浜市
2	山形県長井市	13	新潟県小千谷市	24	京都府京都市
3	山形県白鷹町	14	新潟県南魚沼市	25	京都府宮津市
4	福島県川俣町	15	石川県金沢市	26	京都府京丹後市
5	茨城県結城市	16	石川県小松市	27	京都府与謝野町
6	栃木県足利市	17	福井県勝山市	28	愛媛県西予市
7	栃木県小山市	18	山梨県富士吉田市	29	鹿児島県鹿児島市
8	群馬県富岡市	19	山梨県西桂町	30	鹿児島県奄美市
9	群馬県前橋市	20	長野県岡谷市	31	鹿児島県龍郷町
10	東京都新宿区	21	長野県駒ヶ根市	32	沖縄県久米島町
11	東京都武蔵村山市	22	長野県安曇野市		

### ◇役員

会 長 山形県鶴岡市（市長 皆川 治）  
副会長 長野県岡谷市、愛媛県西予市、茨城県結城市  
監 事 群馬県富岡市、滋賀県長浜市

### ■特別会員[オブザーバー]

農林水産省、経済産業省関係部署担当課長

### ■事務局サポート

NPO法人日本染織文化振興会

### ■顧問（11名）

#### ◎ファッションジャーナリスト

清水 早苗氏 ジャーナリスト／クリエイティブ・ディレクター

#### ◎クリエーションコーディネーター

松田 正夫氏 繊維・未来塾 塾長／（株）大阪繊維リソースセンター特任顧問

岡田 茂樹氏 元東京ファッションデザイナー協会議長／元鶴岡 kibiso プロデューサー

#### ◎テキスタイルデザイナー

須藤 玲子氏 株式会社布取締役

酒井 美和子氏 （有）GBカンパニー代表取締役

福井 健二氏 K. FUKUI PERSONAL OFFICE&EA 主宰

永森 達昌氏 オフィス・ナガモリ代表

#### ◎和装

早坂 伊織氏 着物伝承家

笹島 寿美氏 着装コーディネーター・帯研究家

#### ◎研究機関

玉田 靖氏 信州大学 繊維学部 教授

長島 孝行氏 東京農業大学 農学部農学科 教授（農学博士）

藤井 浩司氏 早稲田大学 政治経済学術院政治経済学部／政治学研究科 教授

阿部 栄子氏 大妻女子大学 家政学部被服学科 学科長／教授（学術博士）

### ■協賛者等（24団体）

#### ◎蚕糸団体

（一財）大日本蚕糸会、中央蚕糸協会、碓氷製糸株式会社、蚕糸・絹業提携グループ



全国連絡協議会

◎産地織物組合

鶴岡織物工業協同組合、福島県絹人織織物構造改善工業組合、小千谷織物同業協同組合、山梨県絹人織織物工業組合、滋賀県絹人織織物工業組合、丹後織物工業組合、本場大島紬織物協同組合、本場奄美大島紬協同組合

◎絹業団体

全国染色協同組合連合会、全国染織連合会、京友禅協同組合連合会、京都工芸染匠協同組合、日本織物中央卸商業組合連合会、（一社）全日本きもの振興会、（公社）全日本きものコンサルタント協会、（一財）シルクセンター国際貿易観光会館（シルク博物館）、東京ネクタイ協同組合、日本繊維輸入組合、新宿区染色協議会

◎その他団体

GS 世代研究会

## シルクのまちづくり市区町村協議会の設立趣旨

古来よりわが国に伝わる尊い宝、絹。

絹を用いる産業、すなわちシルク産業は、地域経済の中で重要な役割を果たし、地域の生活や風土に根付いた産業として我々の地域とともに発展してきました。同時に、悠久の歴史の中でこれら産業が培った技術により生み出される製品は、地域文化を育むと同時に、わが国文化の根幹に大きく関わり、地域の価値や日本の品格を伝えるものとして、産業・文化の両面で貢献しています。

ところが、社会・生活環境が急激に変化する中で、現在では資源の枯渇化や人材の不足、市場の縮小による需要減少など、地域のシルク産業の発展に支障が生じているとともに、近代化・平準化の中でわが国固有の誇りある文化の風化が危惧されているところではあります。

一般的に、シルク製品は、養蚕、製糸、織物、染色など多段階の工程の中で、それぞれに長年にわたって極められた究極の技術が、完璧なまでに調和され完成されます。またそのものづくりは、技術者同士の厚い信頼と連携の上に成り立ち、日本が誇るものづくりの原点ともなっています。さらに、世界においてもシルクは、かつてシルクロードという長大な交易ルートを創造し、産業を活性化するとともに東西文化の交流を育んでいます。すなわちシルクは、単なる繊維素材ではなく、歴史的にも経済社会の様々な断面を相互に発展に導く共通のきずなであり、今後においてもシルクを通じた「連携」「国際展開」「産業活性化」「文化交流」などによって、様々な分野の未来に多くの示唆と可能性を与えてくれるものであると確信します。

こうしたシルクの持つ意味を改めて認識し、シルクに関連する産業、またはシルクに関係する歴史・文化を持つ市区町村が連携し、「シルク産業の活性化」や「シルク文化を活用した魅力ある地域づくり」など、シルクの意味を活用して新たな展望を切り開くため、「シルクのまちづくり市区町村協議会」を設立します。

平成22年1月26日



絹文化フォーラムの様子（長野県岡谷市）



「ヨコハマ“絹”FES IN 大さん橋」の様子（結城市・岡谷市・駒ヶ根市・富岡市が参加）

編集／発行 シルクのまちづくり市区町村協議会

発行年月 平成31年3月

**【この情報誌に関するお問い合わせ先】**

平成30年度 シルクのまちづくり市区町村協議会事務局

（山形県鶴岡市商工観光部商工課）

〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町9番25号

電話：0235-25-2111（代表） F A X：0235-25-7111

メール：shoko@city.tsuruoka.yamagata.jp

ホームページ：https://silktown.jimdo.com/